



杏林大学外国語学部
 応用コミュニケーション学科
 観光文化コース & 外国語学科専門科目群E群

ホスピタリティ・アップデート Hospitality Updates

第1号

発行日 2006年6月

発行人 観光文化コース
 tourism@kyorin-u.ac.jp

広報担当 野口 洋平
 noguchi@kyorin-u.ac.jp

外国語学部に新しい魅力！ 2006年4月、観光文化コースがスタート！

2006年4月、杏林大学外国語学部
 に3つの学科、6つの専門コースが生まれ
 ました。私たち「観光文化コース」（応用
 コミュニケーション学科）は、観光ビジネス
 とホスピタリティをテーマに研究教育に取
 り組んでいます。

21世紀は観光の時代と言われていま
 す。人びとの交流が生み出す文化と価値、
 そしてそれを支えるビジネスと一緒に学び
 考えていきましょう。

観光文化コースの最大の魅力は、観光・
 ホスピタリティの分野で活躍したいという
 “夢”や“目標”に直結した具体的な教育
 内容です。オリジナルの教育プログラムで
 評価の高い外国語学部での外国語教育を
 ベースに、現代の「観光」を支える旅行業
 やホテル業、航空業などに関する実践的な
 授業が展開され、また観光ビジネスの現場
 で必要とされる“ホスピタリティ”を豊富
 な実習プログラムを通じて学びます。

観光・ホスピタリティは、時代の流れに
 合った学びのテーマです。多くの定年退職
 者が見込まれる2007年以降、中高年を
 中心に観光に対するニーズが大きく高まり



観光文化コースの教育スタッフ
 （前列左から鳥尾、岩崎、
 後列左から古本、木崎、野口）

ます。また、わが国は「観光立国」を目指
 してさまざまな取り組みを始めました。特
 に、外国人旅行者を増やすことを目標にし
 た「ビジット・ジャパン・キャンペーン」
 によって、観光・ホスピタリティの現場で
 は英語をはじめとした外国語が堪能な人材
 の需要が大いに高まっています。

外国語学部の新しい魅力「観光文化コース」
 にどうぞご期待ください！

コースコーディネーター 古本泰之講師からのメッセージ

観光文化コースでは、就職先（ホテルや
 エアラインなど）をイメージして設計され
 た「履修モデル」があります。皆さんは、
 この履修モデルに沿って自分の目標に合っ
 た勉強を進めていきます。また随時、観光
 産業の現場で働く人たちの講演会も開催
 し、皆さんにとって有益な情報を提供して
 いきます。

観光文化コースでの学びは教室の中にと
 どまりません。観光を学ぶ人にとって、人
 びとが楽しんでいる現場に行き、楽しみの

中身を知ることはとても重要です。観光文
 化コースでは、さまざまな観光施設（テ
 マパークやホテルなど）への見学も企画し
 ています。また、インターンシップを通じ
 て、実社会について肌で感じながら学ぶこ
 とができます。

観光文化コースでは、やる気あふれる学
 生の皆さんの参加を心待ちにしています。
 ではまた教室でお会いしましょう。

(furumoto@kyorin-u.ac.jp)

観光文化コース
 教育スタッフ

岩崎 公生 教授
 サービス品質の評価
 基準と評価システム
 エコツーリズムと地
 域振興

鳥尾 克二 教授
 観光産業・価値・構
 造・政策

木崎 英司 講師
 ホスピタリティ産業
 における顧客接点人
 材

古本 泰之 講師
 観光開発論

野口 洋平 講師
 ホスピタリティ・マ
 ネジメント

今月の観光用語

「観光」

古代中国・周の時代の「易
 経」にある「国の光を観
 る」という表現が語源。か
 つては他国の実情を視察す
 ること、および見聞を広め
 ることを意味していた。現
 代と同じ意味で使われるよ
 うになったのは大正期以降
 である。英語ではtourismに
 あたり、過去にはその訳語
 として「漫遊」という言葉
 が使われていた。観光に
 は、レクリエーションやレ
 ジャー、リゾートなどの多
 くの類語があるが、観光と
 の関連を踏まえ、区別して
 使用したい。

(出典:朝日新聞アエラムック
 「観光学がわかる。」)

杏林大学外国語学部
応用コミュニケーション学科
観光文化コース

〒192-8508
東京都八王子市宮下町476

電話 042(691)0011 (代表)
FAX 042(691)8617 (共用)
Email: tourism@kyorin-u.ac.jp

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/foreign/>



Hospitality DNA
ホスピタリティ DNA

授業ピックアップ

「宿泊産業概論」 (担当：岩崎公生教授)

岩崎教授の「宿泊産業概論」では、帝国ホテルで長年培われてきた経験に基づいた、実践的なホテル論を学ぶことができます。講義は、ホテルで働くことを目指す皆さんのみならず、観光産業で働きたい人すべてに、役立つ内容です。

また、岩崎教授のホテル勤務時代のユニークな体験談も飛び出し、世界を舞台に働くホテル業の面白さを知ることができます。



「宿泊産業概論」シラバス

経済社会の急速なサービス化とグローバル化が進む今日、「観光立国」を目指す日本において観光サービス産業はますますその重要性を増している。本講義では、ホスピタリティ産業の中核ともいべきホテル産業に焦点を当て、世界と日本におけるホテルの成立・発展の過程をひも解きながら、国際社会における現状と地域社会における役割などを明らかにする。



現在は外国語学部専門科目群E群で「サービス産業論 - 1」として開講しています。

木崎ゼミナール 優しい心を持った人間になろう！

わたしたち木崎ゼミナールでは“優しい心を持った人間になろう”を基本コンセプトに、男子6人・女子23人が個人研究・グループ研究を行っています。

グループ研究では、「宿泊」、「テーマパーク」、「エアライン」、「医療・小売」、「外食」の5グループに分かれ研究を進めており、現在、調査内容を毎回のゼミナールで発表中です。

各グループが直接企業にアポイントメントを取り、インタビューや見学を行い、その結果をパワーポイントにまとめ、毎回のゼミでプレゼンテーションを行っています。

今回はテーマパークグループが東京ディズニーランドのCS（顧客満足）経営をES（従業員満足）の観点から研究した内容の発表でした。

3月にオリエンタルランド社のスポンサー業務部を訪ねインタビューを行うと同時に、実際にパーク内で働くキャストの方々へ直接インタビューも行いました。

オリエンタルランド社へのインタビューは、CSの

テーマパーク研究グループ



原点を知る上でとても貴重な体験になりました。企業にアポイントメントを取ることは想像以上に大変で、どのグループも苦戦しましたが、その苦労があったからこそ発表後の達成感は言葉では表現できないほどです。

研究以外にも、ゼミ内のレクレーションや、ゼミ合宿、杏園祭の話し合いなど、楽しく活動しています。みなさん、木崎ゼミに遊びにきませんか？ お待ちしています。